

関西学院大学 研究成果報告

2023年 5 月 31 日

関西学院 院長殿

所属： 社会学部
職名： 准教授
氏名： 大岡栄美

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国： オーストラリア） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国： ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間
研究課題	多文化社会における社会関係資本とコミュニティに関する社会学的研究
研究実施場所	オーストラリア（メルボルン）
研究期間	2023年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日（ 12 ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

本留学では、社会関係資本の醸成と多様性の関係性の分析を目指し、「移民受け入れによる社会における多様性の深化が社会関係資本の衰退につながるのか」を量的、質的調査により明らかにすることを目指した。留学先は当初計画していたシドニーからメルボルンに変更となったが、地域コミュニティのなかでどのような結節点か、「信頼関係」・「互酬性」・「ネットワーク」の構築に寄与しているのか、「日常的な多文化主義(everyday multiculturalism)」の取り組み実践が、ローカルレベルでの社会関係資本の蓄積を可能にする場や実践への考察を行うことができた。

第1に、World Giving Index (2020) や日本で実施された、「人々のつながりに関する基礎調査（令和3年）調査」に基づく、日豪の社会関係資本の蓄積に関する比較を行った。その結果、人口における移民の割合や人種・民族・言語・宗教的多様性の観点から、むしろ同質性が高いと考えられる日本社会の方が、1) 見知らぬ他者へ支援、2) 寄付行動、3) ボランティア活動時間、いずれの指数においても低調であることが明らかとなった。オーストラリアは、それらのいずれの指数においても高い数字を示しており、「移民受け入れによる社会における多様性の深化は必ずしも社会関係資本の衰退にはつながらないのでは」という量的調査からの示唆が得られた。また調査に基づく知見を、留学受入れ先大学である、メルボルン大学

アジア研究所 (Asian Institute, University of Melbourne) で主催されたセミナー (Inagaki Seminar on Japan 23) にて報告した。日本研究を行う学部生も参加するセミナーであったため、「Caring Community under Transformation in Japan—日本における「共助コミュニティ」の変容」と題し、主に日本の側の社会関係資本の衰退とその原因を考察することをメインとする報告ではあったが、日本との比較から、日豪における他者との関わりの構造的差異について理解を深めることが可能となった。

第2に、地域コミュニティのなかでどのような結節点が、「信頼関係」・「互酬性」・「ネットワーク」の構築に寄与しているのか、という問いに対しては、留学前に想定していた移民の定住支援をする NPO などの活動ではなく、図書館という公共施設の役割や取り組みに着目し、参与観察を行った。エリック・クリネンバーグ (2021) は著書『集まる場所が必要だ』の中で、社会的インフラとしての図書館、学校、運動場、託児所に注目する。人種や性別、年齢や職業の枠を超えて、人々がつながる場が、社会的孤立を解消する社会的資源として重要である点を彼は指摘した。実際、メルボルンにおいても公立図書館が、様々な人々が様々な属性の枠を超え、交流するための拠点となっていた。

例えば、「おしゃべりカフェ (chatty cafe)」はメルボルンの多くの図書館で取り組まれている、1 時間程の予約なしでふらっと立ち寄れるおしゃべりの場である。目的は「人々を結びつけ、社会的孤立を減らし、地域社会内で社会的つながりを築く」ことである。そのほかにも、就学前児童に対する読み聞かせイベントはもちろん、コミュニティから離れて学校世界へと埋め込まれがちな就学期の子どもたちが地域コミュニティに集まる機会を提供する様々なイベントが図書館をベースに開催されていることが参与観察を通して明らかになった。また、地域での居場所を失いがちな十代の若者世代をターゲットにする施設も存在した。2022 年 10 月に再オープンしたベントレー図書館 (Bentleigh Library and Youth Hub) は、通常の図書館であると同時に、若者向けのラウンジやデジタル動画作成スタジオなどを併設し、地域資源として若者のキャリア教育や就業訓練を支えていることを企図して、プログラム運営がされていた。

これらの取り組みは、「誰にとっても開かれており」、地域コミュニティのなかで、参加者が出会い、関わる機会を広く提供していた。その一方、「英語」を話すことができなければ、こうしたコミュニティの資源に積極的に関与することは困難であり、多文化社会における社会関係資本の蓄積には、社会参加を可能にする言語能力の習得が前提とされることも明らかになった。筆者がかねてより調査対象とするカナダもオーストラリアも、多文化社会でありながら、その移民政策においては明確に高学歴・高技能の移民を優先的に受け入れる政策を採用している。この意味で、多文化社会と社会関係資本の蓄積、その相関関係には、各国の移民選抜制度の設計が大きく影響することに注目すべきであることが明らかになった。

残念ながら時間的制約や許可申請の関係で、インタビュー調査を企画した通りに実施することはできなかったため、図書館における専門スタッフがどのようなコーディネーターで、参加者間のより深いかわりや関与につなげていくのかを明らかにすることはできなかった。これらについては、留学での成果を踏まえ、今後の継続的調査課題としていきたい。また留学を通して得た新たな視座としては、他者への思いやりと助け合いという共助社会が、人種・民族・宗教言語的な多様性を内包した社会においても可能となる素地としての、「ちょっとした会話 (small talk)」の重要性である。こうした点はこれまで研究してきたカナダ以上にオーストラリアで観察された行動であり、今後こうした「振る舞いの文化」がどのようにして社会関係資本の蓄積に寄与し得るのかについても、今後の継続的調査課題としていきたい。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構 (NUC)

報告用紙①

- ※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。
- ◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。